

平成 25 年度第 2 回
東海地区大学図書館協議会研修会実施要領

日 時 平成 26 年 3 月 3 日 (月) 13 時 30 分～17 時 00 分 (13 時開場・受付)

会 場 名古屋経済大学名駅サテライトキャンパス 10 階ホール (名古屋市中村区名駅四丁目)

テーマ 「西洋古典資料の整理・保存について」

趣 旨 西洋古典資料の整理・保存については、長期に勤務され、熟達した職員の退職等により、その技術の継承が課題となっている。そこで、西洋古典資料の整理及び保存技術を学ぶ機会を設けることにより、西洋古典資料への関心を高める一助としたい。

【プログラム】

13 : 30 当番館長挨拶
名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館長 近藤久雄

13 : 40 講演
～15 : 10 「歴史的製本の修理について」
講師：製本家、アトリエ・ド・クレ主宰 岡本幸治

【概要】

西洋古典資料は 1 点 1 点が書誌学的に異なった体裁を持つ貴重な資料である。その保存には本としての機能と外観を与えている製本の構造について理解することが重要である。西欧では 18 世紀まで製本は出版とは別個に手作業で行われており、現在とは全く異なった製本が行われてきた。19 世紀以降に製本工程の機械化が徐々に進み出版時に製本が行われるようになり現在にまで至っている。

現代の本の造りとは異なる歴史的製本の修理について、19 世紀以降にひろまった「くるみ製本」を例にとり、実演を交えながら解説する。「くるみ製本」は現代の製本と共通の構造を持っており、現代の本の修理の参考にもなるに違いない。

15 : 10
～15 : 25 (休憩)

15 : 25 講演
～16 : 55 「洋書の扉」
講師：元跡見学園女子大学教授 高野 彰

【概要】

洋書には必ず扉 (Title-page) が付いている。ここは様々な形で表示されている。19 世紀初頭までは重厚というより、ごてごてとした表示を心掛けてきた。それを嫌って簡素な表示を心掛けているのが近代の表示スタイルである。はたしてこの主張は正しいのだろうか？それを解くカギが扉の位置づけである。講演では扉表示の流れを振り返りながら、扉の位置づけと、扉表示あるべき姿について話をしていく。

16 : 55 閉会
～17:00